

京都産業大学 現代社会学部  
プロジェクト演習  
木原ゼミ  
アニュアルレポート

2024



このレポートは「みなみ阿波」若者創生協議会が実施する「県南地域づくりキャンパス事業」の助成を受けて制作しています。「みなみ阿波」若者創生協議会とは、徳島県、阿南市、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町で構成し、交流人口の拡大・人材環流及び地域活性化に取り組む団体です。

# はじめに



京都産業大学・現代社会学部の木原ゼミは、今年で7年目を迎えました。

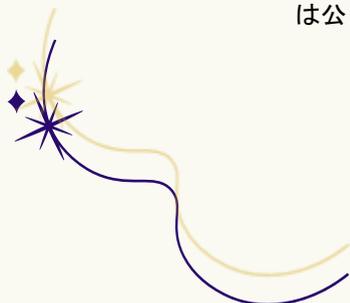
今年度のテーマは、「牟岐町に実際に行ってみよう」と思う人を増やすことでした。関係人口の輪を広げるため、まずは「牟岐町を初めて知る人」をターゲットに、マルシェへの出店を企画しました。活動が続ける中で、木原ゼミを応援してくださる方々も少しずつ増え、私たちの取り組みに共感してくださる人の輪が広がっていきました。

また、秋学期からは7期生が加わり、今年度は2年生と3年生がそれぞれのチームで活動する新たな試みにも挑戦しました。活動の中では、思い通りにいかないことや悩むことも多くありましたが、そのたびに仲間と話し合い、試行錯誤を重ねながら進んできました。

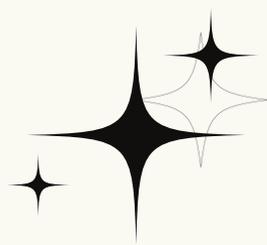
この1年間の軌跡を、ぜひご覧ください！

6期生 堀池優那  
2025年2月

本レポートに掲載したさまざまな活動やゼミの考え方については公式Webサイトからもご覧いただけます。



# 目次



## ゼミ行事

ホームカミングデー	7
学部奨励金表彰	9
オープンゼミ	10
神山祭	11

## 牟岐プロジェクト

活動事例発表会	15
船岡山マルシェ	16
フードサミット受賞	19
6期生牟岐春合宿	20
西陣フェス夏祭り	25
7期生牟岐秋合宿	27
7期生初マルシェ	30
牟岐DAY	31

LaVitaプロジェクト

LaVitaセミナー（6期生） 39

LaVitaセミナー（7期生） 40

ゼミ内インタビュー 41

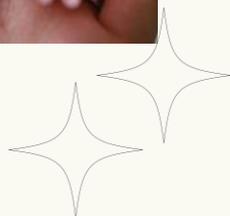
2024年 春～冬号 一覧 42

2024  
活動年表

2024年 活動年表 43

おわりに

おわりに 44





# ゼミ行事

木原ゼミでは、  
「牟岐プロジェクト」「LaVitaプロジェクト」  
以外にも日々さまざまな活動に取り組んでいます。  
新ゼミ生の勧誘や歓迎会、  
京産の文化祭である神山祭にも  
毎年参加しています。  
ここでは上記2つのプロジェクト以外の  
ゼミ活動を紹介します。



# ■ 木原ゼミ初のホームカミングデー ■

2024/02/24



本学のInnovationHubにおいて、木原ゼミの卒業生と現役生の交流のイベントとして初の「ホームカミングデー」を実施しました。木原ゼミ1～3期生の卒業生12名と4～6期生の現役生24名、来賓としてNPO法人牟岐町キャリアサポートの大西浩正さんに参加していただきました。

木原先生と大西さんからの挨拶でイベントが始まり皆で乾杯を行った後、卒業生の方々から簡単に自己紹介をしていただきました。その後、卒業生と現役生を交えたグループでアイスブレイクを行いました。初めて会う人がほとんどでしたがアイスブレイクで緊張はほぐれ和やかな雰囲気に。

続いてチーム対抗でクイズ大会と以心伝心ゲームを行いました。ユニークな回答で大変盛り上がり、1番得点の高かったグループにはちょっとした景品が贈られました！ゲーム終了後には差し入れでいただいたドーナツを食べながら自由に交流をし、ホームカミングデーの閉会後には自由参加の食事会が開かれ、より交流を深めることができました。

今回、木原ゼミがはじまってから全期生が集まるイベントは初めての試みだったため不安もありました。当日は時間配分などでばたばたとしてしまった点はありましたが、先輩方との楽しい時間を過ごすことができ良いイベントになりました。



## ■ 奨励金表彰 ■

2024/05/15

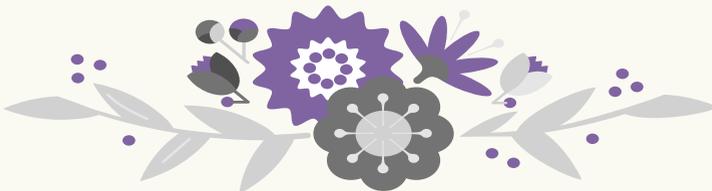


現代社会学部には「他者と協働して社会の課題解決を担う次世代型リーダーの育成」の趣旨に則した成果を収めた個人や団体の活動を奨励し、表彰する制度があります。

このたび、木原ゼミも2023年度の活動についてプレゼンテーションを行い、徳島県牟岐町との関係を深化させ、学生たちが地域の「関係人口」となっていくプロセスが垣間見える活動であったことなどが評価され、表彰していただきました。

活動を促進させるための奨励金も授与され、今年度の活動に活かしていこうと思います。

いつも木原ゼミの活動にご協力、ご指導くださる皆さまに感謝申し上げます。



# ■ オープンゼミ ■

2024/06/06



現代社会学部の2回生は、5月後半から6月前半にかけて演習（ゼミ）の応募期間となっています。木原ゼミでも3回生が5月30日と6月6日の2回にわたって、オープンゼミを開催し、約70名の2回生に参加していただきました。

2回生のみなさんのゼミ選びは真剣そのもので、熱心な質問が飛び交う活気ある2日間となりました。同時にみなさんの質問に答えながら、この半年の活動を振り返り、木原ゼミのコンセプトや目指すものを自分たちの言葉に言語化できたので、ゼミ活動の学びを再確認する良い機会となりました。

ご参加いただいたみなさんからは、「先輩から直接お話が聞けてよかった」「ゼミの雰囲気明るく活気があって楽しそうだった」といった感想もいただきました。木原ゼミの良さを伝えられた気がして、ゼミ生一同嬉しく思います！

# 神山祭

2024/11/02～04



11月2日（土）～11月4日（月）に開催された神山祭で屋内模擬店に出店しました！私たちはチュロスと徳島県牟岐町のゆず茶、ゆず果汁を使ったゆずスカッシュを出店しました。

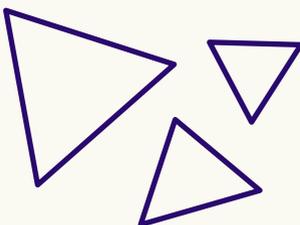
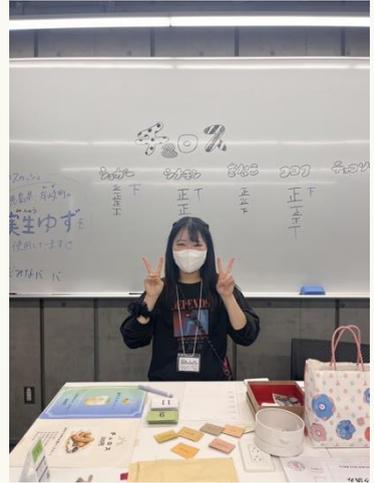
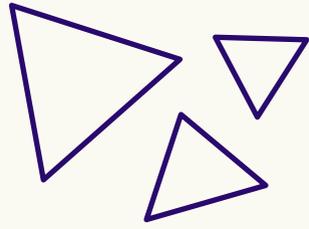
期間中には一般のお客様に加え、牟岐キャリアサポートの大西さんや木原ゼミOBOGの方々にもお越しいただきました。

また、多くのお客様に楽しんでいただけるようゼミ生一同で協力し合いながら運営に努めました。

3日間を通して、多くのお客様で賑わい、チュロスやゆずスカッシュも好評でした。特に、徳島県牟岐町の特産品であるゆず茶を使用したゆずスカッシュは、爽やかなゆずの風味を楽しめる一品として多くのお客様にご好評をいただきました。

運営中には、ホットプレートがオーバーヒートするというトラブルもありましたが、メンバーが迅速に対応し、無事に販売を続けることができました。このような困難も、ゼミの活動を通じて培ったチームワークを活かし乗り越えることができたと感じています。

最後に、応援してくださった大西さんや木原ゼミOBの皆さまをはじめ、ご来店いただいた皆さま、ありがとうございました！





# 牟岐プロジェクト

木原ゼミでは、2018年から徳島県南部の牟岐（むぎ）町をフィールドとして、関係人口創出に関わる活動に取り組んできました。これまで、特産品のゆず（種から育てた実生ゆずといひます）関連商品を京都のマルシェで販売するなどの活動をしてきました。

年に2回春と秋に牟岐町を訪問し、地元の方とのワークショップやゆずの収穫、加工などを行い、交流を深めます。



# 活動事例発表会



2月17日(土)、「牟岐町で活動する大学生・学生・学生団体による活動事例発表会 ～コロナ禍からの再生、さらなる進化へ～」が牟岐町海の総合文化センターで開催されました。

木原ゼミからは大見、王本、宮田の3名が代表として現地入りして報告を行いました。

他にも徳島大、徳島文理大、青山学院大、大阪公立大、NPO法人ひとつむぎ、一般社団法人HLAB、一般社団法人うみのこてらすなど、牟岐町で活動を続ける大学生や団体が、現地参加とオンラインで大集合です。コロナ禍を抜け、現地での活動が本格的に再開した今年度、多くの学生が牟岐と真剣に向き合った様子が次々と報告されました。

木原ゼミは、今年度のテーマを「牟岐の伝統食」として活動し、JAかいふの女性部のみなさんから教わった「牟岐の押し寿司」や、牟岐の産品を活用したオリジナルライスバーガーの開発など、食を通じた牟岐町の関係人口形成の過程を発表しました。

他大学の活動から刺激を受けることも多くあり、今後横のつながりも意識しながら活動を考えていければと思います。

牟岐町の皆さん、今年も1年間私たちの活動を支え、そして温かく見守ってくださり、ありがとうございました！



# 船岡山OPENPARK 2月18日



2月18日(日)、京都市北区の船岡山公園で、船岡山公園 OPEN PARK 実行委員会 FUNAGORAが主催する「船岡山OPEN PARK」が開催されました。木原ゼミ6期生も出店させていただいたのでその様子をお届けします。



私たちは、牟岐町の特産品である実生ゆずを使用したスイーツとしてゆず味噌白玉、ゆず白玉、ぜんざい白玉やの販売や、ゆず茶やポンジュレゆうなどの牟岐町産品の販売を行いました。また、昨年の神山祭で子どもに人気だった、レンコンやオクラをカットした断面をスタンプにする野菜スタンプの体験コーナーを取り入れ、子どもたちとも関わることができました。



今回、6期生が主導として行う初めてのイベントだったため、準備への不安を感じていましたが、メンバーが一丸となって販売品の仕入れや設営に必要なものを集めたことや、レシピを数値化してだれでも作成できるようにしたこと、細かな連絡などで、焦らず当日を迎えることができました。それだけでなく、FUNAGORAさんの非常に手厚いサポートによって、当日も臨機応変に対応でき、たくさんの方と出会うことができました。私たちはこのイベントを大成功に終わることが出来たと感じています！

出店中は、お客さんやスタッフの方々と、商品や牟岐町に関するパンフレットを通して牟岐町を知っていただく機会が多かったです。また、活動に対して興味を持ってくださる方や、別の場所でもやってみて欲しい、協力していきたいなど、嬉しい話も多くいただくことができました。

今回の出店では、子どもから、「元気」を、学生から「アイデア」を、大人から「知識」を得ることができ、木原ゼミとして、ひとつ成長することができたと感じています。

# 船岡山OPENPARK 3月17日



私たちは、今月のメインとしてゆず味噌の風味の良さを感じることできるゆず味噌おでんとゆずの味や香りを強く感じることできるゆずスカッシュを販売しました。また、前回に引き続き、牟岐町の特産品である実生ゆずを使用したスイーツとしてゆず味噌白玉の販売や、ゆず茶やボンジュレゆうなどの牟岐町産品の販売を行いました。加えて、昨年の神山祭で子どもに人気だった、レンコンやオクラをカットした断面をスタンプにする野菜スタンプの体験コーナーも継続して行いました。



今回、2回目の参加でしたが規模が先月とは違い、約30店舗が出店しておりその分お客さんも多く、PARKNIGHTも開催するなど、非常に大規模なものとなりました。その中でも事前にあらかじめマルシェに出店する意図を確認したことや前回の経験をもとに運営の連携をとれたこと、以前以上にメンバー内の信頼が深まったこともあり、困ることなく最後まで行うことができました。

このマルシェに出店する一番の理由である関係人口の創出とリピートについてもいい結果を得られたと感じています。前回来ていただいた方もまた来ていただいたり、いつもお世話になっている牟岐町の方々にも来ていただき、実際にどのように出店しているのかやその場の空気感を知っていただくことができました。また、今回初めて来られた方も、ゆずに触れ、パンフレットを見ていただくことで関係人口の一步目を踏んでいただくことができたのではないかと考えています！

そのあとに行われたPARK NIGHTでは「まちづくり」について考えるワークショップのイベントや演奏による締めもあり、地域のつながりの強さや、新たな出会いや考えの交錯がつくる、あたたかくそれでいて熱量を感じる空間を体感することができました。今回の出店では、2回目としての出店の実績や急なトラブルの対応への経験を得ることができました。また新たな出会いを生み出す場にもできたことで、木原ゼミとして、またひとつ成長することができたと感じています。

# 船岡山OPENPARK 4月21日



私たちは、今月のメインとしてゆず味噌焼きおにぎりを販売しました。今回はワークショップも変更し、京都市内ではなかなか感じるができない海を感じてほしい、牟岐町には出羽島という島があり、貝殻の砂浜があることを知ってほしいといった思いから、出羽島の海岸の貝殻やビーズなどを埋め込んだフォトフレームを作成する体験型のブースを設置しました。



今回、3回目の参加となり、先月以来の方々と多く触れ合うことができました。一日中の雨となりましたが、お客さんもテントに入ったり、雨宿りをほかの出店者や運営の方々とする中で人が集まってできる温かさを感じることができました。焼きおにぎりも匂いを感じていただきながら、おいしいという評価もいただき、無事完売することができました！ワークショップも貝殻の使い方や色の混ぜ方に個性を感じながら貝殻に興味を持っていただき、「うちの子貝殻に触れるの初めて」とうれしい言葉もいただき、多くの人に体験していただくことができました！

このマルシェに出店する一番の理由である関係人口の創出についても、いい結果を得られたと感じています。今回はじめて来ていた京都精華大学の3年生の方たちと話す機会もあり、新たな出会いと関係性が深まるのを実感できる時間にするのができたと感じています！

今回の出店では、3回目としての出店の実績や新たな視点、個人個人が積極的にかわりに行ける力を得ることができました。また新たな出会いを生み出す場にもできたことで、木原ゼミとして、またひとつ成長することができたと感じています。

この3回マルシェに出店して自分たちは何をしていきたいのか、今年度の目標はどうするのかを考えながら、この関係性を大事にして、木原ゼミとしても頑張っていきたいと思います。

# 「第2回100年フードサミット」活動発表



3月8日(金)東京の九段会館において、文化庁が主催する「第2回100年フードサミット」が開催されました。100年フードサポーター学校に認定された木原ゼミが招待され、牟岐町の押し寿司の魅力を広く発信した活動に対し感謝状が授与されました。また、他の受賞者とともにパネルディスカッションにも参加し、100年フードに認定された押し寿司の歴史や魅力のほか、その学びをきっかけにゼミ生が開発した未来へ続く100年フード「ゆず味噌香る牟岐ライスバーガー」の取り組みについても紹介しました。



ファシリテーターを務めた本事業有識者委員会座長であり、公益社団法人日本観光振興協会総合研究所顧問でもある丁野朗氏からは、「学生と連携した地域文化の発信は他地域の参考にもなり、とてもいい取り組みだ」という評価もいただきました。

現地には、牟岐キャリアサポートの大西さんのほか、ゼミ生も駆けつけ、また、牟岐町からは、JAかいふ牟岐や役場、観光協会の皆さん、現在ワーキングホリデーで町に滞在している木原ゼミ6期生のメンバーなどがオンラインで参加し、会場へエールを送っていました。

# 6期生牟岐町合宿



木原ゼミ6期生は5月11日(土)、12日(日)に徳島県牟岐町に春合宿に行きました。初めて6期生のみで牟岐町での合宿を行い、充実した時間を過ごすことができました。



## ●ゆず学習と食体験

まず牟岐町に到着し、現地の方々のJA女性部や正路さんなどから牟岐町の特産物である実生ゆずについて改めて学びました。実生ゆずの特徴として徳島県の年間の寒暖差が(冬マイナス9℃から夏36℃)が40℃あり、香りをさらに高める作用があります。また、山と海が近く谷が多いため霧が立ちやすく、葉っぱからの水分吸収が多いゆずに向いているそうです。さらに、殺菌効果のある杉が多く生えていること、蜘蛛などの益虫により害虫が少ないため無農薬で栽培が可能になっています。これらのことを紙面と口頭で教えていただきました。また、質問の時間の中では、牟岐町の方にとって実生ゆずは、各家庭にゆずの木が生えており、米酢の代わりにゆずの酢(ゆずのお酢)を使うほど、身近な存在であるということも現地の声として教えていただくことができました。現状の出荷量や木一本からとれる果汁の量、管理できているゆずの木の数も大まかに教えていただき、よりゆずについて考えるきっかけもいただくことができました。

食体験の時間では、押し寿司の体験を行いました。押し寿司の飾り方で盛り上がり、皆でおいしくいただきました。

また木原ゼミが制作した白玉を実際に作り現地の方に提供しました。「商品化しないの?」と声がでるほど好評でうれしかったです。部屋全体には押し寿司に使用したゆずの酢と白玉の味付けにつかったゆず果汁でいい香りが漂っていました。



## ●6期のゆずを植えてきました！

ゆずのお話の熱が冷めないまま、ゆずの植林を行いました。事前に準備していただいた看板に各々自分の名前とゆずへの名前を書き苗のそばにおき目印を立てました。実生ゆずは成長に10年以上は絶対によするものであるため大学にいるうちには収穫はできませんがまた6期生が集まるときの目印として、忘れないものとして形に残るものになってほしいなと思いました。毎年成長状況を確認していきたいほど愛着も沸く植林となりました。



## ●BBQとミーティング

ゆずについてひと段落した後、内妻荘へ移動しました。その後、ひとつむぎの学生の方や牟岐町の方々とBBQをしました。BBQでは、伊勢海老、鰹のたたきなど牟岐町の近くで取れる新鮮な海鮮やジビエ肉として鹿肉などさまざまな美味しい食材を食べさせていただきました。BBQの終わりにはゼミ生全員で花火をしました。花火の後にはみんなでミーティングを行い、合宿一日目の振り返り、合宿前に自分で決めた目標の進捗状況の確認、明日の日程などについて話し合いました。





## ●牟岐町散策

2日目は内妻荘で豪華な朝食を食べたあと、モラスコ牟岐周辺を散策しました。モラスコ牟岐に隣接している古牟岐海岸を歩き、去年と同じスポットで写真を撮ったり魚を探したりして楽しみました。

その後、西又地区で炭窯をされている西澤さん達の元を伺い、薪割り体験をさせていただきました。初めは上手く2つに割るのが難しかったのですが、コツを掴むとそこまで力を入れなくても割れるようになり楽しかったです。またウバメガシ・カシを原料とする備長炭についてお話を伺いました。またその場で牟岐町が開発した「牟岐茶」を飲ませていただきました。「牟岐茶」は青く美しく澄んだ牟岐町の海のような色をしていて、牟岐経済センターが栽培を進めている農作物「モリンガ」と阿波藍をブレンドしたお茶です。ゆずなどの酸性を加えると赤紫に色が変わることも教えていただきました。阿波藍の香りがほんのり香るスッキリとしたハーブティーのような味で飲みやすく美味しかったです。

次に、フェリーに乗り出羽島散策へ向かいました。潮風を感じながら普段乗ることのない船移動に全員大興奮でした。手羽島は人口約30～40人の小さな島で、重伝建の街並みがすごく懐かしい気分にさせてくれました。全員で展望デッキに登ると出羽島の集落、広がる海、遠くには牟岐町の街並みが一気に見渡せ、最高の気分になりました。その後も海に行って貝殻を集めたり住民の方とお話をしたりしてゆっくりとした空間を楽しみました。普段京都で生活している私たちにとっては非常に有意義で非日常的な時間を過ごすことができました。



## ●リアル会議

牟岐町の散策から帰り、turn farmに移動しました。

まず街おこしの方々のパスタをいただきました。キノコやスパイシーなパスタを食べ少し休憩することで会議に備えることができました。

そして始まった会議の中では大西さん達と6期生の一年間の目標や、やっていくこと、関係人口の考え方について話し合いました。

まず6期生がどのように関係人口をとらえているか今後やっていくこととはというテーマで発表しました。そのなかで今後もつながっていく、後輩に残していく関係性について熱い議論が始まりました。牟岐町の方々からは自分たちの立場ではどのような関係人口ができるとうれしいのかを語っていただきました。そのなかで共通していたのは木原ゼミの活動によって牟岐町に興味を持つ人、思い出してくれる人が増えることでした。ゼミとしてどこまでできるかも考えながら時間いっぱいまで目指す関係人口の言語化を行いました。

この時間の中ではこれと固めることはできませんでしたが今後の軸となる議題も浮き彫りになり非常に有意義な時間となりました。

今回の合宿では牟岐町の方々にとっても親切に協力していただきました。その分学ぶことも多く、前回の合宿ではできなかった体験も通して6期生としてレベルアップできました！ゼミのなかでも今まで以上に深まり今後の活動が非常に楽しみになる期待を抱ける時間になりました。この経験をゼミでまた一度見直しより良い活動になるよう頑張っていきたいです。





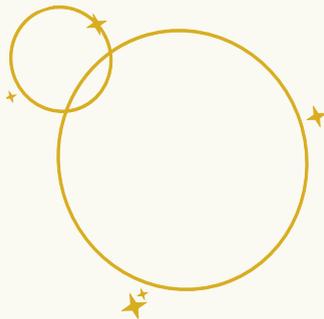
# 「西陣fes夏祭り」



8月3日(土)、京都信用金庫 西陣支店で、西陣FES実行委員会が主催する「西陣FES夏祭り」が開催されました。

今回、屋内ではワークショップを行い屋外ではゆずスカッシュの販売を行いました。

ゆずスカッシュの販売の際には、牟岐町のジオラマを展示し、牟岐町について知っていただく時間もつくることができました。屋内で行われたワークショップでは、牟岐には貝殻もよくとれる魅力的な島もあることを大人だけでなく子供にもわかりやすく知って欲しいという思いがあり、出羽島の砂浜の貝殻やビーズなどを埋め込んだフォトフレームを作成する体験を提供しました。どちらも大盛況で当初の予定よりも参加者を集めることができました！参加者は地域の親子連れの方が多かったこともあり、ワークショップは特に賑わっていました子供たちが発想力豊かにフォトフレームを作る中、見守る親御さんと話す時間もあり今回のイベントを聞いたきっかけを聞かせていただきました。保育園の連絡帳から、近所の方から、いつも行く店にあったチラシからなど、たくさんの理由を知った中でどれも日常や地元のつながりを強く感じるものだなと思いました。



今回、このイベントに参加した目的は木原ゼミがより地域の方々と深い関係性を築くというものでした。そこで新たな試みとして木原ゼミの名刺を作成しました。

これを渡していくことで木原ゼミを形に残るものとしても覚えてもらいやすくなり深い関係性に繋がると考えています。また、いつも以上に地域の人や出店者の方に話しかけようとゼミのメンバーで話し合い実行しました。

その結果、このイベントで関わらせていただいた出店者の方々とも仲良くなることができました。その中で普段何をしているのか、このイベントに出店したきっかけ、今後やってみたいことを聞き合うことができました。また、こんなことをしてみたい、お互いでコラボも楽しそうだねと未来についても話すことができました。

ゼミとして様々なイベントに出店してきたこと、日々のゼミでの活動で増した信頼感や、目的に向かってみんなが進む一体感を今回のイベントで発揮することが出来ました。臨機応変な対応や積極的に地域の方に話しかけにいけるようになるなど、

以前より成長したと感ずることができる場面もあり、大成功のマルシェになりました。



# 7期生初の牟岐町秋合宿



11月16日(土)から17日(日)に7期生初めての牟岐合宿に行ってきました！  
天気はあいにくの雨。大阪から牟岐まで約4時間半の長距離移動で少し気持ちが折れそうになる場面もありましたが、牟岐に到着した瞬間、そんな疲れや天候のことも忘れてしまうほど、牟岐のみなさんが温かく迎えてくれました。

今回の合宿では、1日目に実生ゆずの収穫とゆずしぼり体験を行い、その後若者の活動拠点「Turn Farm」で夜ご飯をいただきながら牟岐町の方たちと交流しました。

2日目は、モラスコ牟岐で牟岐の方々とミーティングを行い、初めての牟岐町の感想やこれからやってみたいことなどについて意見交換を行いました。その後、第6回牟岐町にぎわい産業祭でも町の方たちと交流。午後には船に乗って出羽島へ渡り、島内を散策しました。

初めての経験がたくさん詰まった充実の2日間。この合宿を通して、牟岐のことを知り、学び、さらにこれからの活動について考えるきっかけを得た私たち。これからの活動がもっと楽しみになりました。



## ●実生ゆず収穫&しぼり体験

まずは実生ゆずの収穫とゆずしぼり体験。

牟岐の方々に教わりながら、貴重なゆずをひとつひとつ丁寧に落とさないように収穫していきます。もぎたてのゆずからは、酸味のあるスツキリとした良い香りがふわぁーっと漂ってきました。

収穫した実生ゆずを牟岐町の方に教えてもらいながら初めてのゆずしぼり体験。ゆずの皮と種、果肉を取り除く作業や、ゆずの果汁を専用の機械を使って一つずつ絞っていく作業を体験させていただきました。最初は初めての作業でとまどいながらもやっていくうちに慣れていき、みんなで楽しく作業することができました！



## ●「Turn farm」で交流会(夜ご飯)

まるで秘密基地みたいな「turn farm」で夜ご飯をいただきました。

初めて訪れたはずなのにどこか懐かしさを感じる居心地の良い空間。大西さんが用意してくださったおでんや自分たちで盛り付けたピザ、さらに役場の方からいただいたお刺身など、どれも美味しく、おなかいっぱいになりました！

また、食事を楽しみながら自己紹介をしたり、卓球やビリヤードで遊んだり、牟岐町の動画を見せていただいたりと、とても楽しく濃い時間を過ごすことができました。



## ●牟岐町の方と初ミーティング

秋合宿2日目牟岐町の方とミーティングを行いました。まず、初めて牟岐町を訪れた7期生が牟岐町の印象を述べました。事前学習はしていましたが実際に行ってみると各々感じたことがありました。

人口減少の町というイメージが強かったのですが、様々なお話を聞いたり、初日の夕食後に鑑賞した動画の影響もあり、大学生の様々な取り組みが行われている若い人が訪れる町でもあるという印象を受けました。

次に、牟岐町がなぜ関係人口を増やすことにしたのか、どのような取り組みを行っているかについてお話していただきました。さらに、共通意識を持つために牟岐町の方達が目指す関係人口のありかたについて確認しました。ゼミ生として、関係人口を増やすために牟岐町とどのように関わっていくか様々な意見が飛び交いました。町の方と関わる中で初めて知ることや、発見などもあり非常に有意義なミーティングを行うことができました。このミーティングを忘れることなく、京都で何ができるか再度、話し合いを重ねていきます。



## ●産業祭！！

合宿二日目には牟岐町の産業祭に参加しました。産業祭では出展ブースがあり雑貨や牟岐の特産品などが販売されていました。木原ゼミの活動を紹介するパネルも展示してもらいました。レンコ鯛の天丼やもち麦うどん、クレープなどをいただきました！



## ●初上陸in出羽島!

徳島県牟岐町から船に揺られること15分、出羽島が見えてきます。私たちは合宿二日目に、出羽島を訪れました。出羽島は、住民票に登録している人数が約60人しかいません。私たちが訪れた際には、何人かの住人の方と会うことができました。住人の方に、挨拶をすると笑顔で挨拶を返してくれました。私たちは少ない時間ではありましたが、住人の方との交流を通じて、温かい島であることを実感しました。出羽島の中を探索していると、100段以上はある階段を発見しました。息を切らしながら、階段を駆け上がると、頂上から見える出羽島の絶景がそこにありました。美しい景色に、階段の疲労も忘れ、一同うっとり。景色に癒された後は、今後マルシェで使う貝殻拾いの為、海辺へ向かいました。海辺に散らばった貝殻を拾い集めながら、写真撮影も忘れません。出羽島では、時間に追われる生活を忘れ、ゆったりとした時間を堪能することができました。



## 7期生初マルシェ

木原ゼミ7期生は11月23日(土)に初めてマルシェ出店を行いました。

11月23日、京都市内にあるKBSホールで開催されたイベント「ハラダイス版ハンケイ500m」のマルシェに出店しました。これが7期生初のマルシェ出店でした。実生ゆずを使ったゆずスカッシュとホットゆずティーを販売しました。果汁は先日の合宿で収穫し絞ったものです。

準備時間が少ない中での参加でしたが、先生や先輩の力を借りながら無事終わることが出来ました。初めは売ること必死で牟岐町のPRが不十分な場面もありました。しかし、先輩にアドバイスを貰ったことで積極的に声掛けできるようになりました。結果、お客さんが多く足を運んでくださり、牟岐町を知ってもらうきっかけ作りが出来たと思います。

今回、マルシェの目的を明確に出来ないまま当日になってしまったことは反省すべき点だと感じました。また、イベントで他にもマルシェ出店がある場合、ドリンクだけでは魅力に欠けることも分かりました。反省を通してこれから7期生が目指すべき方向を話し合うきっかけになりました。

一方、イベント自体は参加したメンバー全員が楽しむことができました。シンガーソングライターの原田博行さんをはじめとしたライブ出演や、他マルシェのカレーやタコスといったブース、KBSラジオの公開生放送など様々な企画があり、思い出を作ることができました。



# 6期生イベント「牟岐DAY」開催！

2024年12月14日(土)、京都信用金庫 QUESTIONで、木原ゼミ6期生の活動の集大成として『牟岐DAY』を開催しました。

このイベントは2部制に分かれていて、  
第1部には実生ゆずを使った商品を販売する「ゆずマルシェ」、  
第2部ではゆず以外の牟岐の魅力を伝えるためのワークショップ「つなぐ～木原ゼミから広がる輪～」  
を開催しました。

## ●第1部「ゆずマルシェ」

牟岐町の特産品であり、木原ゼミのトレードマークでもある「実生ゆず」を京都の人にもっと知ってもらうために「ゆずマルシェ」を企画しました。これまで参加したマルシェで繋がった出店者さんにお声がけさせていただき、初めて主催者としてのマルシェ開催を実現できました。各出店者さんには、お店のおすすめ商品に加え、実生ゆずを使ったコラボ商品の企画、販売をお願いしました。

10時から会場準備が始まり、1時間という短い時間の中で準備し、各出店者さん同士で顔合わせを行いました。バタバタした中イベントがスタートし、「お客さんが来てくれるのだろうか」という不安もありました。最初はお客さんがまばらだったものの、時間が経つにつれて多くの方が会場に足を運んでくれました。木原ゼミの活動を以前から応援してくださっていた方々や、町家カレッジの方々、以前のマルシェや学祭で出会った方々、さらには木原ゼミの先輩・後輩など、多くの方にお越しいただきました。また、徳島の地域活性化活動行っていて牟岐町を詳しく知っている方が偶然通りかかるという思いがけない交流が生まれる場面もありました。



木原ゼミで販売していた「ゆず味噌焼きおにぎり」と「ゆずタレ焼き餃子」も非常に人気でした。「ゆずスカッシュ」と「ホットゆず茶」もいつも通りの売れ行きで、他の担当のゼミ生にヘルプでキッチンを手伝ってもらうほど盛況でした。また、今年から発売された「牟岐茶」も注目を集めました。牟岐茶は、焙煎されたモリンガのはいったハーブティで牟岐町の青い海をイメージした藍色が特徴です。その珍しい色合いに、お客さんは興味を持ってくれました。



大盛況のまま、15時をむかえ無事マルシェを終えることができました。

感想ノートには「全部美味しかったです！次も絶対に行きます！」や「新たな出会いもあって楽しかったです！ゆずを使った食べ物もめっちゃ美味しかったです！」、「初めてのイベントコラボ楽しかったです。ゆずゴールドも好評でまたやってみたいと思いました。」といった温かい言葉が並び、ゼミ生たちの努力が多くの方の心を動かしたことを実感させられました。



## ●第2部「つなぐ～木原ゼミから広がる輪～」

第一部のゆずマルシェ終了後に、第二部『つなぐ～木原ゼミから広がる輪～』と題した地域活性化に関するワークショップを行いました。木原ゼミ6期生や牟岐町の皆さんに加え、7期生やOBの方、地域活性化活動に興味のある方などをお招きし、50名程度の賑やかな開催となりました。

第二部の目的は、牟岐町の方々と直接お話をすることで、どんな町なのか、どんな方が牟岐町と関わっているのかを知り、町の魅力に触れてほしいということでした。今まで私たちは、実生ゆずを使ったマルシェ活動を行ったり、SNSで牟岐の魅力を発信したりしてきました。この第二部では、普段とは違うアプローチ方法で、牟岐町の方のあたたかさや、若者が牟岐町に惹かれる理由を感じてほしいという思いで開催しました。

まずは、牟岐町を初めて知った方もいらっしゃるため、牟岐町の紹介と、牟岐プロジェクトのテーマである「関係人口創出」の説明から始まりました。その後、緊張を解くためのアイスブレイクとして、自身が行っている地域活性化活動や、出身地の紹介を行い、和やかな雰囲気になりました。場が温まったところで、地域について考えるグループワークを行いました。「地元のいいなと思うこと、改善されたいなと思うこと」を話し合いました。各グループには牟岐町をはじめ、関西や北陸、九州など様々な地域出身の方が集まり、その土地ならではの習慣や良さをお聞きすることができました。その話を踏まえたうえで、「どのような地域に住みたいか」について考えました。「個性のある町」「人との距離がちょうどいい町」「自然豊かな町」「交通の便がいい町」など多くの意見が出ました。



10分の休憩をはさみ、牟岐町で活躍されている大学生、有賀 春桜美(あるがす おみ)さんへのインタビュー動画を視聴しました。牟岐町で活動を行っている若者はどんな活動をしているのか、牟岐町のどこに魅力を感じているのか、などを事前にゼミ生が直接インタビューを行いました。牟岐に対する思いを感じたのと同時に、参加者の方にも牟岐町の良さを感じていただける時間になりました。

インタビュー動画を参考に2つ目のグループワークでは、「学生ができる地域への関わり方」について意見交換を行いました。牟岐町の方の「こんな町にしたい」「こんなことをしてくれたら嬉しい」というご意見をヒントに、話し合いを進めていきました。離れた場所でもできることや、大学生だからこそできる強みを活かした活動について考えるよい機会になりました。

最後は、牟岐町のプロモーション動画の視聴と、牟岐町役場の方からのお話で幕を閉じました。



第二部を通して、牟岐町は「人の出入りが多い町」、「人の繋がりを大切にしている町」、「穏やかな原風景が残っている町」などたくさんの魅力があることを再確認するきっかけになりました。さらに、牟岐町に住む方々や、地域活性化活動に興味がある方々と一緒にグループワークをすることで、普段のゼミ活動では聞くことのできない斬新な意見や考えを取り入れることができました。今回の話し合いで出た内容は、今後のゼミ活動に繋がる大切な材料になったのと共に、参加者の方には牟岐町の魅力を知っていただく濃い時間になったのではないかと思います。

春学期から関係人口について議論を重ね、どのような方向性で行くか考え不安を抱えながら、マルシェや学園祭を行っていきました。6期生の一人ひとりの頑張りや、日々支えてくれた先生や牟岐町の方、出店に快く許可していただいた出店者さんのおかげでマルシェを無事成功させることができました。





# LaVitaプロジェクト

---

「キャリアは人との出会いによって切り開かれるもの。」

木原ゼミでは、ゼミ生の将来の生き方や働き方の視野を広げるため、人との出会いをととも大切にしています。LaVitaプロジェクトでは、普段の学生生活で出会わないような年齢や職業、暮らす地域などが異なる方の価値観や生き方を取材し、記事にします。

イタリア語で「生活」「人生」を意味する“La Vita”(ラ・ヴィータ)。

その名の通り、ゼミ活動の中で出会う人々の生活史、働き方、生き方をインタビューし、記事を執筆するプロジェクトです。

インタビュイーはゼミ生自身が「この人の話を聞きたい」という人を決めて、取材に行きます。作成した記事は、「働く」について考えるフリーマガジン『おっちゃんとおばちゃん』（季刊誌）に毎号掲載されます。

---

16歳~30代のための「働く」を考える情報誌

おっちゃんとおぼちゃん

読者の声  
フォーラムA賞  
新刊部門  
優秀賞受賞

VOLUME 039  
2024 WINTER  
TAKE FREE

進路を決めました。  
消去法で  
60代 大学教授

仕事の選び方は  
一人ひとり違っていい。  
読むと視野が広がる、きっと。

おっちゃんとおぼちゃん フォーラムA賞 search!

16歳~30代のための「働く」を考える情報誌

おっちゃんとおぼちゃん

読者の声  
フォーラムA賞  
新刊部門  
優秀賞受賞

VOLUME 040  
2025 SPRING  
TAKE FREE

知らないからニギ  
できる仕事をあきら  
50代 コンクェイスト・プログラマー！

仕事の選び方は  
一人ひとり違っていい。  
読むと視野が広がる、きっと。

おっちゃんとおぼちゃん フォーラムA賞 search!

# LaVitaセミナー（6期生）

木原ゼミ6期生は6月13日(木)にLaVita執筆に向けてレクチャーを受けました。

6月13日、今回はいつものゼミとは雰囲気を変え、木原ゼミが行っている「LaVitaプロジェクト」でお世話になっている、株式会社ユニオン・エーの呉玲奈さん、木村実那子さんをお呼びし、優れた原稿とは、どんな原稿を目指すべきかなどのレクチャーをしていただきました。

『「LaVita」づくりを楽しむ』というテーマで、取材の基本的な流れから、インタビューをするときに相手から話を聞き出すコツ、5W1Hを使った上手な質問の仕方、写真の取り方など、プロの技術を沢山伝えていただきました。インタビューの持ち物や話し方からもどんな人物であるか情報を得るという観察力の重要さも学びました。

その他に、「働く」ということについて知っておきたいことについてもお話をさせていただきました。

LaVitaプロジェクトの記事を掲載している、『おっちゃんとおばちゃん』は年を重ねてもやりたいことを見つけて人生を謳歌しているおっちゃんとおばちゃんが登場する「働く」を考える情報誌です。

大人の言う「仕事がきつい」というネガティブな言葉を無条件に信じないこと、「働く」ことは、自分を成長させてくれる一つの方法のひとつであり、新たな学びにつながるのだと、仕事を楽しむ大切さについても学ぶことができました。自分の知らないことを知ることで、選択肢が増え、人生を彩ることができます。

私たち6期生も就活が始まり、「働く」ことについての悩みを抱えていましたが、お金を不愉快に稼ぐのではなく、楽しみを見つけることの大切を知り、温かい言葉とともに前向きな気持ちになることができ、心がふっと軽くなりました。

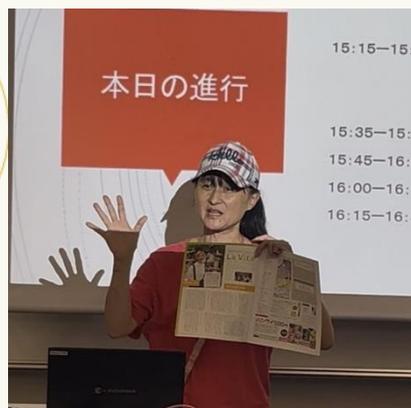
いい文章・面白い文章とは、「自分が何についておもしろいと思ったか」が伝わる文章であると教えていただきました。



## 7期生 Lavitaセミナー

10月17日(木)のゼミでは、株式会社ユニオン・エーの呉玲奈さん、木村実那子さんを講師に迎え、2回生(7期生)に向けたLaVitaセミナーを実施しました。まずは同社が発行し、木原ゼミもインタビュー記事を掲載させていただいているフリーマガジン『おっちゃんとおばちゃん』について、そのコンセプトや編集方針を伺いました。「みんなもいつか必ず、おっちゃんやおばちゃんと呼ばれる年齢になる、その時、明日の仕事が楽しみで仕方ないと思っている大人になってほしい」という願いをこめて、いろんな価値観で仕事をする人を紹介する素敵な雑誌です。

そのあとは「いきなりインタビュー実践」ということで、ゼミ生全員で木原先生に「働く」ということについてインタビューしました。呉さんからは、「メモは取ってた?」「もっと掘り下げて聞くこともできたんじゃない?」とフィードバックをもらい、インタビューの基本やその魅力を教えていただきました。また、インタビューの服装や持ち物から人物を想像する観察力や5W1Hを使った深掘りする質問、魅力的な写真の撮り方なども教わり、実践的な内容もたくさん教わりました。



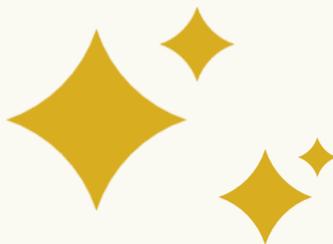
# 7期生 ゼミ内インタビュー



木原ゼミ名物『Lavitaプロジェクト』。さまざまな人にインタビューし、その人生や生き方を掘り下げるプロジェクトですが、今年は入ゼミ間もない7期生が互いのインタビューを通じて仲間を知る企画を行いました。

7期生Lavitaセミナーで学んだことを活かしながらインタビューに取り組むことができました。

第一印象とは異なる意外な一面、その人の信念、将来への夢などさまざまな角度からゼミ生の素顔に迫ることができました。



# Lavita 記事執筆



『おっちゃんとおばちゃん』2024年春号  
取材・執筆：矢野遙香、中西桃花



『おっちゃんとおばちゃん』2024年夏号  
取材・執筆：堀池優那、森野葵



『おっちゃんとおばちゃん』2024年秋号  
取材・執筆：本多未奈、神谷美穂



『おっちゃんとおばちゃん』2024年春号  
取材・執筆：北岡鈴菜、岡千絢、品川侖里

# 2024 活動年表



2月

3月

4月

5月

6月

7月

2/18  
船岡山  
openpark  
初出店

3/12  
船岡山  
openpark

5/11. 12  
牟岐町春合宿

2/17  
活動報告会

2/24  
ホーム  
カミン  
グデイ

4/21  
船岡山  
openpark

6/13  
LaVitaセミ  
ナー開催



8月

9月

10月

11月

12月



9/26  
7期生結成 &  
初対面

11/23  
2回生マルシェ  
出店

8/3  
西陣fes夏祭り  
に出店

11/4  
神山祭

12/14  
牟岐DAY





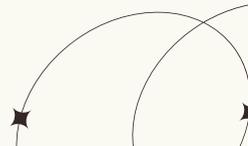
# おわりに ～編集後記～

一年間の活動はとてもあっという間に過ぎていきました。全員が同じ目標に向かって同じ熱量で活動を進めていけたことはとてもすごいことだと実感しています。アニュアルレポートという形で一年をまとめ、今後につなげていくことができうれしいです！！ありがとうございました！  
6期生 品川侑里

3回生になってから、マルシェや神山祭、12月イベントの企画運営など、主体的に活動するようになり、充実した日々を送ることができました。壁にぶつかったときは話し合いを重ね、支えてくれたゼミ生に感謝しています。あと一年仲良く楽しく頑張らましょ～！  
6期生 神谷美穂

振り返ってみると、この1年は新しいことに挑戦する機会が多かったと感じています。そんな中でも、ゼミ生1人1人の良さを発揮し、協力して活動に取り組むことで乗り越えることができました。大変なこともありましたが楽しい思い出ばかりです。ありがとうございました！  
6期生 本多未奈

すべて自分たちでゼミを運営する中で、わからないことや不安も多くありました。正解がないからこそ、みんなで試行錯誤し活動することで、木原ゼミの大切な軸である「自分で考え、自分で動く」という姿勢が自然と身についたと思います。4年生も全力で楽しもうネ（^^）  
6期生 堀池優那





ゼミに入った時からまずは自分が楽しむことを目標に活動してきました。時にはゼミの活動と他の活動が重なり、少ししんどいなと感じることもありました。がなんとか楽しみながら最後までやり遂げられたと思います。残りのゼミ活動も自分が楽しむことを忘れずに頑張ろうと思います！

6期生 山下陽勇馬

木原ゼミに入って、たくさんの人との出会いがありました。牟岐町に行くと、みんながやさしく迎えてくれて、2つ目の故郷ができたようで嬉しかったです。毎授業居残りして牟岐町のことを考えてきた時間は、意味のあるものだったと感じています。人生に疲れたらまた釣りに行きたいです。

6期生 岡千絢

秋から7期生としてゼミに入り、最初は自分たちにも今の6期生のようなゼミ活動ができるか楽しみではありつつ、とても不安でした。しかし、6期生の人との交流やマルシェの参加など内容の濃い半年を経験させてもらい、なんとなく3回生になった時のイメージが掴めました。次学期からも変わらず仲良くがんばりたいです！

7期生 石田翔星

2回生になりゼミの活動が始まり、この先どういった活動をしていくのか7期生で考える時間が増え、これから本格的に自分たちで活動していくのだという実感が湧いてきました。先輩たちの意志を引き継ぎつつ、7期生らしさを感じさせるような新しい活動も頑張っていきたいと思います！！

7期生 上馬大知



京都産業大学現代社会学部  
プロジェクト演習 木原ゼミ  
2025年2月